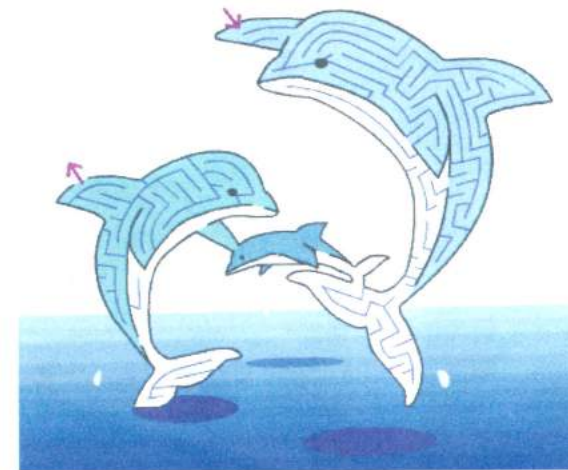


Leaving Care News

-No.101-

サマーフェスタ2005年 H 17.7.17 16:00～21:00



今年もサマーフェスタの時期がやって来ます。毎年多くの方々に足を運んで頂き、職員一同大変うれしく思っています。

今年が目玉としては、プロのおじさんバンド「GOZ 'S」の参加があります。1960年代に一世風靡したベンチャーズなどのエレキサウンドそして、グループサウンズ。なつかしい曲が次から次に聴ける事と思います。

緑日には、体育館の半部を使って、巨大迷路を組みます。お化け屋敷ではありませんが、夏祭りにふさわしい恐怖の迷路となります。お父さんやお母さんと一緒に挑戦して下さい。体育館に恐怖の悲鳴が響くことと思います。金魚すくいやスーパーボール、ヨーヨー釣りもありますので、冷たいジュースやおいしい食べ物を片手に体育館にも足をのぼして下さい。

今年のフェスタは、今までの緑日チケットはなく、露店との共通チケットとなりました。緑日には、100円のチケットで2つ遊べますが、迷路は100円チケット1枚必要です。露店で使いきれなかったチケットも緑日で使えるわけです。反対に緑日であまったチケットで色々な食べ物が買える事にもなります。

サマーフェスタに向かって、職員も一丸となって準備を始めています。どうぞ、楽しみにして下さい。多くの方々に来場して頂き、楽しい一時を過ごしてもらえようが楽しみです。

では、簡単な迷路で、戦闘準備をしておいて下さい。



コラム-読者の皆様から

口唇の秘密

歯科医師 秋廣 良昭

今回は口唇の秘密の最終回です。第3番目の口唇の秘密は、口唇と表情筋との間に影響関係があり、この影響と知能発達にも関係があります。加齢と共に表情は弛みがちで、時には痴呆症に特有なボケ顔にまで変化します。多くの表情筋と直接・間接的に口唇の深部を構成する口輪筋と結ばれております。口を閉じる筋肉をしっかりストレッチすることで表情の加齢を止めることができます。日本でも女性の引き締まった顔は「小顔」ブームとなっております。表情筋と知能との間の因果関係も最近明らかになってきました。猿と人ではDNAや遺伝子の面ではさほど違いがないのに、知能については大きな差異があります。表情筋が発達してくるにつれ大脳の進化・発達との関係が認められます。口唇を閉鎖する力を強化するためのストレッチは女性憧れの若々しい顔を作るだけでなく、痴呆症を予防・改善することができるのです。

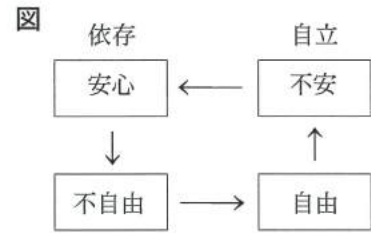
「一石二鳥」という言葉があります。口唇の閉鎖する筋肉をストレッチすることだけで、若々しい顔を保つ美容だけでなく健康を保つことが可能になります。綺麗で、聡明な上に健康という非の打ち所のない自分を作り上げるのは種明かしをすれば口唇ストレッチすることでそれほど難しいことではなかったのです。

◇◇ お礼 ◇◇

たくさんのかたがたより頂戴物をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼を申し上げます。

ないということを職員も肝に銘じる必要があります。そういった意味で、日常的にさまざまな生活体験や社会的体験を数多く積んでおくということが重要になります。

しかしながら、この世の中、誰にも「依存」することなく暮らしている人はいない訳で、いつでも必要な支えがあるということも精神的自立に向けては必要不可欠と思われまます。(江指)



Q2: 障害がある方はどれくらいおられますか。

A: 受胎して生まれるまですくすくと成長し、問題なく生まれて欲しいと願わない母親はいないのですが、人間は一個の

生命体ですから、障害が発生することも覚悟しなければならない部分を背負っています。つい最近6月7日に2005年版の障害者白書が発行されました。その中に5%という数字が出ていました。100人に5人の割合ということになります。数というのは不思議なもので、同率ですが20人に1人ということとも言えるとなると受ける印象が違う。ひとごとではなくなる。ちなみに新松江市の人口はおよそ19万人です。5%といえば9,500人。更に高齢になればもっと高い確率で何らかの暮らし難さとの戦いが待っている。どんな風年を重ねるのか自分にもわからない未知の世界が待っている。周りの人にやさしくありたいですね。

Q3: 機関紙「つばき」がカラーになったのは何号からですか。

A: 2カ月おきに15日の発行です。カラーになったのは56号からです。

グループホームだより (小山アパート)

小山アパートは、住宅が増えつつある中、前に田、畑、がありバス停も近く、静かで、便利の良い所にあります。

ここでは、5人で生活しております。それぞれ自分の生活は、大切にしながら、日常生活での掃除、風呂、食事の準備等、皆んなで話し合い協力しながら生活しております。

グループホームの良い所として病気、怪我をした時等皆んなで心配してあげ、助けてあげれる、この充実感、安心感、他では、味わえないと思います。又時々自分達の好きな物を作って食べれるのも最高です。時には、喧嘩をすることもありますが、これが一歩前進になり又仲良く暮らしています。(井上)



今年は団体優勝をしました!!

6月12日に濱山公園で第6回島根県障害者スポーツ大会フライングディスク競技大会があり、アキラシー(遠くのリングをくぐらせる)の部で団体優勝をしました。熱かったけど参加できてとても良かったです。(足立)



編集後記

最近、個人のプライバシーを守る事の大切さが盛んにニュースで流れています。ある研修で知ったのですが、皆さんは個人情報と個人データの違いってご存知でした? 個人データの情報を一定の様式にそろえて表にすると個人データになるのだそうです。

そして、4月より施行になった個人情報保護法は6ヶ月間に5,000人以上のデータを扱う事業所に適用され、保護できなかった場合には罰せられることとなります。千鳥福祉会は該当しませんが、配慮の必要があります。この機関紙「つばき」へのお名前、お写真の掲載がご迷惑でしたら、ご一報いただきますようよろしくお願い致します。(機関紙編集委員会)

このたびクリーニング作業支援11年の実績を各方面より評価いただき、日本財団様の助成により授産施設を整備することとなりました。

ワークセンターフレンドは一般就労を目指すことを運営方針に盛り込んでいます。訓練の目的、内容、期間を利用される方とよく話し合っ一人ひとりの願いがかなうようお互いが努力していく施設にしたいと思っています。

かれこれ9年も前のことですが、「障がいのある無にかかわらず、働くことを中心にすえた生活を組み立ててこそ人としての尊厳を守る支援である」と考え、印刷・清掃・クリーニングをメニューにした福祉工場の整備を申請しました。残念ながら、経営に不安があるということで不採択となりましたが、あのときの願いがやっと形になり始めました。振り返ってみますと、感慨深いものがあります。多くの方のご支援をいただいて手に入

れたチャンスです。15年間のノウハウの蓄積を生かして、実績が上がるような運営をしていきたいと思っています。

利用をご希望される方はいつでもご相談においでください。

■概要
場 所 松江市東持田町1415
千鳥福祉会法人敷地内
定 員 20名
授産科目 ホテル関係のリネンを主としたクリーニング

その他特徴 大手企業との信頼関係や連携があり、安定した作業量を確保できています。したがって、全国平均を上回る工賃の支給や技術の向上と共に企業実習を計画的に取り入れるなど一般就労を念頭に入れた支援をします。

また、障がい者の一般就労と地域生活には長期にわたる継続的な支援が必要であり、法人が実施している事業を駆使して生涯支援する体制を作ります。

運動会

楽しいよー！

「平成ニュータウン地区の皆様にご心より感謝申し上げます。」

五月晴れの中、今年も平成ニュータウンの第1公園をお借りして千鳥福祉社会運動会を行いました。

「やっぱり運動会は外でやるもんだ」「空はこんなに高いんだ」「こちよい風がさーっと吹いて」こんな開放感は久しぶりでした。赤・青・白・黄色優勝したのは何色だっけ。ご家族やボランティアの皆さんの優しさも身にしみて…。



青空にむかって「あーんぐっ」



アレ!



〈もっと強く!〉



〈赤勝って、赤勝ってレッツゴーゴー〉



おちついて!

〈講評〉心のなごむ運動会でした。家族共々楽しませていただきました。

平成ニュータウン自治会の皆様にご心よりお礼を申し上げます。



島根大学ボランティア

島根大学より福祉ボランティアとして26名きて頂きました。ありがとうございました。

- やっている内に共感出来る部分ができはじめたような…
- 自分は何をしたらいいのかわからないのか、利用者の方が何をしたいのか、自分に何が出来るのかその判断が非常に難しいな…
- 人と人とをつなげるコミュニケーションの大切さを実感…
- なかなか話せなくて…夏祭りにはもう少し自分から一杯話しかけたい…
- 職員さんの接し方をまねてみたら意外とうまくいって…
- みんな運動会を楽しんでいて、私も本気で熱くなりました…
- 外国人として日本に来て、普通の日本文化だけではなくこんな体験をやってみたことは本当に良かった…
- 温かい雰囲気を感じ、いい施設だな…
- やっぱり、自分から積極的にすることが大切だと…
- 普通に会話出来る人から、重度の方まで混ぜて、こんなにみんなで楽しめたのはやっぱり計画や準備の段階での細かい配慮がなされていたのだろうな…

のっと通信 no.2

—地域での自活訓練—

先月号にもご紹介しましたが、地域で暮らし始めた持田寮数名の皆さんはその後どうでしょうか。

民家や田んぼに囲まれ、穏やかな風景の中で心が和まないはずがありません。利用されている皆さんのものびのびとした生活を好まれ、楽しまれ、想像以上に早く環境に慣れたようです。少人数でゆっくりした夜を過ごし、屋間は持田寮で普段の生活を送るという職住分離もクリアできました。

周囲の方のご理解とご協力に感謝し、我々職員一同、今後の生活がより豊かなものになるよう支援に努めていきます。お気軽に立ち寄りいただけますよう、お待ちしております。



挑 戦 ～本人の主張5～

四肢体幹に障がいがあっても大変明るく、毎日元気いっぱいMさん、その姿勢はくじけることなくたくましく、本当に頭の下がる思いがします。登所一番、目のさめるような大きな声で「あ〜！」とアピール。返事がないとガラス戸をドンドン。お客様には誰よりも真っ先に玄関にお出迎えをし、スリッパを揃えて下さるなど、積極的です。

でも感謝されることばかりではなく自分の思いが受け入れてもらえない時には支援員との駆け引きのうちに一日が終わっていきます。

そんな彼女が近頃、変わりました。一心不乱に箸入れに取り組み、立派に仕上げる事が出来るようになったのです。毎日、人の作業姿を見ながら、決められた限界枠では承知できず、何とか自分もしたい、いや、できるんだという確信をもっておられたのだと思います。当然の事ながら、作業中の徘徊やいたずらもすっかりなくなり静かに集中されています。40歳を迎えられた今春には、初めての支給金を手に入られました。

人に認められることの喜びを自力で勝ち取りやと輝き始めたMさんですが、幅広い興味や執着を満足させるにはまだまだ障害の壁が高く立ちがだかっています。私たちはエンドレスでチャレンジし続ける彼女の精神力に心打たれながら、「自分」という不確実なものに一つ一つ意義を持たせていくことの大切さを教えられています。

福祉事情 Q&A

メモ帳と鉛筆を手に施設の中を取材気分に見ました。Q&Aならうまく記事になるかな?と思ったところまでは良かったのですが、それがなかなか、「福祉とは?」という質問から、「発作に遭遇したらどうしますか?」に至るまで質問が届いて、…こんなに難しいことになるとはゆめゆめ思いませんでした。そこで、ぼちぼちということにしました。読者の皆さんもちょっと聞いてみたいと思われる点がありましたら気軽にお寄せください。

Q1:自立とはどういうことでしょうか。
A:自立を身体的な自立、精神的な自立、経済的な自立に分けて考えてみるのがいいでしょう。

1. 身体的な自立について

身近自立についてはもちろん自分でできることが望ましいという事は言うまでもないわけですが、障害の程度や状況

によっては獲得不能なこともあると思います。できないことについては無条件に支援を得ることができるということではないと思います。できることについては支援者と一緒にしていくことが、自分でしているという意識を育てたり、しいては自発性や自尊心を育てることへも繋がると思われま。そんな気持ちや育つたり、そんな気持ちを抱えていただけたなら支援の手は借りても十分な身近自立といえるのではないのでしょうか。

2. 精神的な自立について
精神的な自立については、背景となるものがおおく、複雑に作用しあっているため、少々説明が長くなります。

まずは、一般的に人の自立について話したいと思います。わかりづらいころもあると思いますので、図を参照いただければと思います。人は、この世に生を受けたとき、目も開かず立ち上がることもできず、おっぱいを自力で飲むことさえできません。すべての面において誰かの手を借りなければ一日として生きられない、これは敢然たる「依存」の状態にありま

す。すべて、人において、出発点は「依存」であり、ここから自立への道程が始まります。「依存」の状態は必ず誰かに受容され、全面的な支援を受けることができるのできわめて「安心」な状態にあります。

しかしながら、少しずつ成長をしていくうちに、やがて自分で歩けるようになり、周囲への関心が広がり「自分でこうしたい」という気持ちが育ちます。このとき、「依存」:「安心」という状態は心地よいものから思い通りにできないという「不自由さ」に転化します。個々で人は自由を求めるといふ自立への自発的行動を始めます。ただ、個々での自由は頼るべきものを自ら放棄する行為で、自ら周囲の状況に対応する力を備えていない子供はやがて不安を感じるようになります。そのために「安心」を求め「依存」の状態へ戻ってくることとなります。子供の成長はこのサイクルを繰り返す中で、徐々に「自立」へ向かうものだといえます。

ですから、このサイクルを阻害するような過剰な過保護や放任(放置)は自立に向かうごく自然な人の成長をゆがめてし

まうものと考えられます。昨今の家族機能の低下は、大人になりきれない人を多く生み出す結果を招いているといえるのでしょうか。

さて、知的障害がある方はどうかと考えると、基本的にはこの筋道は同じだと考えます。ただ、障害があるゆえ、過剰な保護が生じるケースや、本人の行動がなかなか理解に至らないというケースも多いことから悲しくも放置という結果になってしまっていることもあるでしょう。

また、知的発達に支障があるがゆえ、「自立」の声を自ら発する二至らない人も多く、はっきりとした大人の区切りを迎えることがなく暮らし続けている人も多いためです。ただ、恒久的に「依存」の状態に置かれることが、心地良いことではないことは明らかです。何らかの形で大人としての区切りを本人にわかりやすい形で示すことが望ましいのだと思います。別の視点では、施設での支援においては、本人が自ら選択をしたり、決定をしたり、という自分がなければ自立への道も